

[横浜美術館]
 平成25年度業務報告及び収支決算
 [公益財団法人横浜市芸術文化振興財団]

- ※ 文中の事業欄において、
 ●：主催事業。○：共催事業
 を示します。
- ※ 文中の達成指標、達成状況欄において、
 □：定量的指標。■：定性的指標
 を示します。

1 施設の概要

施設名	横浜美術館
所在地	横浜市西区みなとみらい3丁目4番1号
構造・規模	鉄骨鉄筋コンクリート造8階建 一部3階建
敷地・延床面積	19,803㎡・26,829㎡
開館日	平成元年11月3日

2 指定管理者

団体名	公益財団法人横浜市芸術文化振興財団
所在地	横浜市中区山下町2番地 産業貿易センタービル1階
代表者	理事長 澄川 喜一
代表者設立年月日	平成3年7月10日
指定期間	平成25年4月1日から平成35年3月31日まで

3 指定管理に係る業務総括

(1) 基本的な方針の総括

今年度は、東京メトロ副都心線と東急東横線の相互直通運転の開始やマークイズみなとみらい開館といった追い風もあり、プーシキン美術館展と横山大観展には多くの来館者が訪れ、当館の存在を発信することができました。また、シンガポール美術館との共同企画による展覧会や、コレクションを活用した下村観山展では当館の独自性を発揮することができました。

さらに、コレクション展各期で障がい者向けの鑑賞会を行うなど鑑賞プログラムが一層充実し、ボランティアによるトークの試行や小児病棟及び重症心身障がい児施設へのアウトリーチの実施など、市民と美術館の新たな関係を構築しつつあります。

また、グランドギャラリー中央部への総合インフォメーション機能をもつ円形カウンターを設置し、それに伴う電源、電話回線、公衆無線LANなど施設面での整備も進み、より快適に美術館を楽しんでいただけるようになりました。

以上のように、経営、事業、運営管理がバランスよく機能した1年となりました。

(2) 25年度の業務の方針及び達成目標の総括

① 経営の総括

プーシキン美術館展の入館者数が目標を大きく上回り、収支の安定、美術の裾野の拡大および地域の賑わい創出に寄与しました。

横浜音祭り 2013 の会場として開催した3つのコンサートでは、横山大観展関連イベントとして展覧会と関わりをもたせた美術館ならではの内容を企画しました。横浜みなとみらいホールの協力によりスムーズな運営を実現し、専門性を活かしたネットワークの強化を推進しました。

また、計画に遅れがでたもののホームページの全面リニューアルに向けてプロジェクトチームを立ち上げるとともに、下半期に継続的にFMヨコハマで番組を提供し展覧会以外の美術館の魅力を伝えるなど、新たな広報活動に取り組みました。

② 事業の総括

◇展覧会

プーシキン美術館展に牽引され、年間目標入館者数 718,000 人に対し 977,747 人(136%)となり、館全体の収支安定に寄与するとともに地域の賑わいを創出できました。

本市ゆかりの思想家・岡倉天心の生誕 150 年・没後 100 年を記念して、天心の高弟・横山大観と下村観山の充実した展覧会を続けて開催することで、日本画の魅力を独自の視点で発信しました。横山大観展は、師友交流という着眼点が評価され、高階秀爾氏による「2013 年の 3 選」(毎日新聞 2013 年 12 月 26 日)に選出されました。また、下村観山展は当館コレクションを核とした独自性の高い展覧会となりました。

シンガポール美術館との共同企画であるジャングル展は目標入館者数に達しなかったものの、近年国際的に注目される東南アジアの現代美術を本格的に紹介しました。平成 26 年度には、シンガポール美術館において、当館のコレクション展が予定されており、本格的な国際交流の枠組みを形成しつつあります。

◇横浜トリエンナーレ

国際的な発信力をもった重要な企画展として、横浜トリエンナーレ組織委員会と緊密に連携しながら、全館体制で取り組んでいます。当館学芸員が作品調査に携わり、教育普及と広報のための特別プログラムを準備し、またオリジナルグッズの製作を進めています。

また、館長の逢坂恵理子は、国際展関係者を一堂に集め情報交換とネットワーク構築を目的に創設される IBA (International Biennale Association) の準備委員会に、平成 23 年秋に横浜トリエンナーレの代表として日本から唯一招待され、その後討議を重ね、現在は理事として平成 26 年 7 月の正式発足に向け準備をしています。

◇教育普及

障がい者に向けた鑑賞サポートは、コレクション展各期の鑑賞会など他館に先駆けた活動を含んでおり、今後も機会をとらえ継続していきます。

◇市民協働・地域社会や市民生活に貢献する取組み

従来開催していなかったボランティアによる個人向けの鑑賞前レクチャーの実施に向け、市民の活力を美術館で発揮していただくため、ボランティア育成に取り組んでいます。

特別支援学校を含むさまざまな学校との創造支援活動の経験を活かし、小児病棟及び重症心身障がい児施設へのアウトリーチを実施しました。

③ 運営管理の総括

横浜市との政策協働による指定管理者制度の初年度として、政策経営協議会や外部評価の仕組みづくりに協力しました。政策経営協議会では大規模修繕や収集についての提案を行い、政策協働パートナーとしての責務を果たしました。大規模修繕については規模によっては将来の企画展会期に影響がでることから、実施時期は横浜市との綿密な調整が課題です。

新たに取り組むビジターサービス事業では、エントランスにおける来館者の導線整理とサービス向上のため、グランドギャラリーの中央部に総合インフォメーション機能をもつ円形カウンターを設置し、チケットブースやチラシラックの再配置を行いました。

4 経営についての達成状況

(1) 横浜美術館が国際都市横浜の魅力を牽引するための取組み

ア 個性の発揮と創造・挑戦的な取組み

[目指す成果]

- ・当館ならではの個性を明確にし、集客力とともに、発信性を高めます。
- ・異なるジャンルとの連携、社会に対する美術のあり方の提起など、創造性、発信性を発揮します。
- ・組織横断的で複眼的な視点を持ち、「すべての人に開かれた美術館」を目指します。

[成果についての振り返り]

- ・プーシキン美術館展に牽引され、年間目標入館者数715,000人に対し976,820人(137%)となり、館全体の収支安定に寄与するとともに地域の賑わいを創出できました。

本市ゆかりの思想家・岡倉天心の生誕150年・没後100年を記念して、天心ゆかりの日本画家の展覧会を続けて開催することで、日本画の魅力を発信しました。横山大観展は、師友交流という着眼点が評価され、高階秀爾氏による「2013年の3選」(毎日新聞2013年12月26日)に選出されました。また、観山展は当館コレクションを核とした当館の独自性の高い展覧会となりました。

シンガポール美術館との共同企画であるジャングル展は目標入館者数に達しなかったものの、平成26年度に当館コレクション展が予定されるなど、当館の本格的な国際交流の端緒を開きました。

- ・横浜音祭り2013の会場として3つのコンサートを実施しました。横山大観展と関わりをもたせ、美術館ならではの内容を企画、横浜みなとみらいホールの協力によりスムーズな運営を実現しました。
- ・障がい者に向けた鑑賞サポートは、コレクション展各期の鑑賞会など他館に先駆けた活動を含んでおり、今後も機会をとらえ継続していきます。また、特別支援学校を含むさまざまな学校との創造支援活動の経験を活かし、小児病棟及び重症心身障がい児施設へのアウトリーチを実施しました。
- ・随時行っている団体向けの鑑賞前レクチャーに加え、ボランティアによる個人向けの鑑賞前レクチャーを観山展にて試行で実施し、横浜トリエンナーレに向けて本格稼働します。

[取組内容]

●質の高い多様な展覧会の実施・発信と来館者の裾野の拡大する展覧会の開催

[達成指標]

□企画展 4回/年 コレクション展 3期/年
※詳細は企画展については5-(1)-ア、コレクション展については5-(2)-ア-(ウ)を参照

[実施内容と達成状況]

【達成】企画展4回/年、コレクション展3期/年

【追加実績】横浜音祭り2013《大観展関連イベント》

<p>●市民協働</p> <p>●地域社会や市民生活に貢献する事業の実施</p> <p>●おもてなしの心の徹底とリピーター獲得への事業の実施</p>	<p>□ボランティア育成 約60人/年</p> <p>□NPO等との協働 2団体/年</p> <p>※詳細はボランティアについては5-(3)-ア-(エ)、NPOについては5-(3)-イ参照</p> <p>□6事業/年</p> <p>※詳細は5-(3)-イ参照</p> <p>■ビジターサービスチーム設置、研究と計画実施</p> <p>※詳細は6-(1)-ア参照</p>	<p>【達成】74人/年</p> <p>【達成】2団体/年</p> <p>【達成】6事業/年</p> <p>【達成】ハード整備およびサービス試行</p>
--	--	--

イ 都市戦略との連携

<p>[目指す成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・創造都市形成や、シティーセールス、観光プロモーションと連携した事業を組織横断的に展開し、横浜市の都市戦略に寄与します。 ・当館を取り巻く市場の構造、市民の生活行動様式や芸術文化に対するニーズに関するマーケティング戦略の再構築を実現します。 <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「岡倉天心とオペラ」では、観山展開連イベントとして、単なる会場貸しではない美術館ならではの内容を企画し、また、横浜みなとみらいホールの協力によりスムーズな運営を実現しました。 ・アンケート分析を通じたマーケティングを、計画どおり適正に実施しました。 		
<p>[取組内容]</p> <p>●展覧会の開催にあわせた、みなとみらい21地区に貢献できるイベント開催</p> <p>●フォト・ヨコハマ、クラシック・ヨコハマなど横浜市が推進する事業との連携</p>	<p>[達成指標]</p> <p>□2回/年</p> <p>■随時</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】2回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7/19-21 クラシックカーの展示と審査を行うコンクール・デレガンス・ジャパン2013に会場提供約20万人(赤レンガ倉庫会場含む) ・12/23 横浜信用金庫創立90周年記念クリスマス・コンサート 640人 *《Heart to Art》による開催 <p>【達成】3件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8/20, 21 子どもアドベンチャー2013 横浜美術館「夏休み・子ども探検ツアー！」 各30, 25人 ・クラシック・ヨコハマ2013 ミュージウムコンサート ・11/17 音遊びワークショップ 30組 ・12/21 「岡倉天心とオペラ」133人《観山展開連イベント》

<ul style="list-style-type: none"> ●横浜市のコンベンション誘致に協力したレセプション会場などとしての活用 ●当館の特色ある概観や敷地を有効活用したフィルム・コミッションへの積極的な協力 ●展覧会の会期中に来場者アンケートを実施して有効回答各500通を収集して分析 ●展覧会終了後にデブリケーティング実施 	<ul style="list-style-type: none"> ■随時 ■随時 □1回/企画展 □1回/企画展 	<ul style="list-style-type: none"> ・フォト・ヨコハマ2014パートナーイベント ・コレクション展第3期特集展示「ロレンツォ・メルロ写真コレクションより」*再掲：コレクション展* ・若手作家支援事業 百瀬文展 サンプルボイス* 再掲：若手作家支援展* <p>【達成】1回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10/10 Bio Japan2013パートナーリング・パーティー 440人 <p>【達成】7回</p> <p>【達成】1回/企画展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジャングル展596通、プーシキン美術館展1,450通、大観展1,070通、観山展1,343通 <p>【達成】1回/企画展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジャングル展6/25、プーシキン美術館展9/24、大観展12/3、観山展2/21
---	--	---

ウ 専門性を活かしたネットワークの強化

<p>[目指す成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもへの対応など、財団内専門館施設の共通課題について、横断的に実施し、特定ジャンルからパイロット的に実施するなど、総合的に寄与します。 ・当館が築いてきた美術家や、事業者、NPO、ボランティア、大学などとの協働・連携体制を一層拡大・深化させていきます。 <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横浜音祭り2013の会場として3つのコンサートを実施しました。コンサートは、大観展関連イベントとして、単なる会場貸しではない美術館ならではの内容を企画し、また、一部、横浜みなとみらいホールとのコンテンツ提供を含む連携によりスムーズな運営を実現しました。 ・特に、障がい者に向けた鑑賞サポート、ボランティア育成、重症心身障がい児施設へのアウトリーチ、横浜市環境創造局との協働によるワークショップを通じ、館外との協働関係を強化しました。 		
<p>[取組内容]</p> <p><u>専門館連携</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ●美術館という特別な拠点・空間を活かして、また他の専門館とも連携して、様々な芸術のイベ 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> □来年度実施にむけて企画立案 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【追加実績】3回</p> <p>横浜音祭り2013《大観展関連イベント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10/11 星空シネマ×オルガン 246人 ・10/22 藤原道山 plays 大観 84人

<p>ント・ウィークの開催</p> <p>●「プーシキン美術館展 フランス絵画 300 年」にて横浜みなとみらいホールと連携した関連事業検討</p> <p>●岡倉天心生誕 150 年・没後 100 年記念事業にて横浜能楽堂などと連携した関連事業検討</p> <p>●財団中期経営計画 2011-2013「子ども事業企画会議」への参加と関係者への情報共有、特に「ヨコハマ・コドモ・アートナビ」などを通じ効率的な広報実施</p> <p><u>館外との連携</u></p> <p>●ボランティア育成、市民とのフラットなコミュニケーション、横浜美術館コレクション・フレンズを通じて実現する市民協働</p> <p>●横浜市、NPO 法人などとの連携を深め、美術館におけるエデュケーション事業を発展させた地域社会や市民に貢献する事業</p>	<p>□1 回/年</p> <p>□1 回/年</p> <p>□3 会議/年</p> <p>□3 事業/年 ※詳細は 5-(3)-ア -(エ)参照</p> <p>□6 事業/年 ※詳細は 5-(3)-イ参照</p>	<p>・11/3 大観を奏でる～塩谷哲スペシャルコンサート 1,000人</p> <p>【達成】1回/年</p> <p>・4/21みなとみらいホールで開催された「井上道義(指揮)ノサンクトペテルブルク交響楽団」にて、プーシキン美術館展チラシを配布</p> <p>【達成】1回/年</p> <p>・横浜能楽堂からの助言・仲介に基づき、観山展カタログの巻頭エッセーの執筆者を選定。</p> <p>【追加実績】1回</p> <p>・8/9 横浜美術館×KAAT 神奈川芸術劇場タイアップ講演「イサム・ノグチをめぐる3つの物語「iSAMU」と彫刻家ノグチの仕事」 132人</p> <p>【達成】3会議/年</p> <p>・5/21, 11/15, 2/21会議参加</p> <p>【追加実績】1回</p> <p>・9/25 財団内研修「子ども事業の専門研修」19人</p> <p>【達成】3事業/年</p> <p>【達成】6事業/年</p>
--	---	---

エ 広報・連携体制の充実・強化

<p>[目指す成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別の展覧会や事業ごとの宣伝だけでなく、当館の発信のため、戦略的に展開します。 ・当館を支えていただいている市民やメディアと、信頼と支援の関係性をより強固に形成します。 <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの全面リニューアルについては、横浜音祭り2013の対応があり、スケジュールを変更しました。しかしながら、下半期に継続的にFMヨコハマで番組提供し、全館広報を行うと同時に、現状のホームページによる発信を継続し、ツイッター等での幅広い広報を行っています。 ・メディア関係者との懇談会を通じ、子どものアトリエへの取材が実現するなど、全館広報が強化されています。 		
<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●「近隣から始まる来館者の拡大」を目標に、「近隣アートプログラム」を実施 ●ウェブサイトへのアクセスも横浜美術館へのビジターと捉え、ウェブコンテンツ、ウェブサイトでの視聴覚プログラムの配信、メルマガやオンラインショッピングなどを通じて来館を促す手法開発 ●メディア関係者との交流会と意見交換会 	<p>[達成指標]</p> <p>□4回/年</p> <p>■3月 ホームページ全面リニューアル ※市と協議の上計画変更 平成26年度完了見込み</p> <p>□1回以上/年</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】4回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・MMCC(MinatoMirai community club) 横浜美術館 ナイトとして、近隣就業者を対象とした鑑賞会・交流会開催：ジャングル展5/15, プーシキン美術展8/23, 大観展11/15, 観山展1/15 各114(15), 218(14), 114(10), 65(10)人(団体数) <p>【追加実績】2回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大観展鑑賞会 11/16 道草塾11人 ・観山展レクチャー 12/11 マークイズ店長会議 200人 <p>【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1/28 ホームページプロポーザル参加者募集開始、3/14 プロポーザル評価委員会により契約候補会社選定し、4月 契約予定 <p>【追加実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9-3月毎週金曜日 FMヨコハマ”THE BREEZE”内「もっと楽しむ!横浜美術館」コーナー提供 30回 <p>【達成】2回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10/18 横浜市内媒体向け 6社10人 ・3/11 文化記者向け 18社20人

オ 経営基盤の強化と長期的・継続的な検証の実施

<p>[目指す成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業の安定的な実施と適切な施設管理に資する健全な収支維持のため、各事業のマーケティングの強化や外部資金の導入などにより、自主・自律的な組織運営を目指します。 ・PDCA サイクルを様々なレベルで機能させ業務品質管理を高めます。 <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画どおり、適正に実施しました。 ・特に企業向け芸術支援プログラム《Heart to Art》については、来年度に拡大できるよう、目標や内容を協議し、

準備を進めています。		
[取組内容] ●自主財源の開拓 ●事業評価制度の運用	[達成指標] □3種/年 ※詳細は6-(2)-ウ参照 □4種/年 ※詳細は7-(1)-イ参照	[実施内容と達成状況] 【達成】3種/年 【達成】4種/年

カ 市との政策協働の着実な推進

<p>[目指す成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10年のビジョンを実現するために、市と当館の政策協働体制を確立し、相互のやり取りによって、より有効な政策・施策や事業を検討するとともに、文化芸術以外の他の政策との連携を進めます。 <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政策経営協議会では大規模改修や収集について提案を行い、また、外部評価委員の視察内容を市に提案し、政策協働パートナーとしての責務を果たしています。 		
[取組内容] ●政策協働による指定管理	[達成指標] ■政策経営協議会および指定管理者選定評価委員会への参加と各種意見の事業への反映 ※詳細は7-(1)-ア参照	[実施内容と達成状況] 【達成】政策経営協議会4回、外部評価委員視察3回開催

5 事業についての達成状況

(1) 質の高い多様な展覧会の実施と発信を通じて、来館者の裾野を拡げるための取組み

ア 質の高い多様な展覧会の実施・発信と来館者の裾野の拡大

<p>[目指す成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・独創性、地域性、発信性、経営的な観点を踏まえて、バラエティに富んだ企画展をバランスよく実施します。 ・集客が期待でき、学芸的な知見・研究に基づく魅力的な企画案を積極的にマスメディアに提案し共催します。 ・質の高い展覧会を関係機関と協働して組織し、アジアをはじめ海外に巡回させていきます。 <p>以上を行うことで、質の高い文化活動を実現し、来館者の裾野を拡大します。</p> <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プーシキン美術館展が牽引し、目標350,000人に対し、実績は484,981人(139%)となり、計画を上回りました。 ・ジャングル展はシンガポール美術館との共同企画であり、近年国際的に注目される東南アジアの現代美術を本格的に紹介しました。平成26年度秋にはシンガポール美術館で当館のコレクション展が予定されるなど、本格的な国際交流の枠組みが形成されつつあります。 ・プーシキン美術館展は、マスメディアと出資共催し、館全体の収支の安定に寄与するとともに、美術の裾野の拡大および地域の賑わい創出に貢献しました。 ・本市ゆかりの思想家・岡倉天心の生誕150年・没後100年を記念して、天心ゆかりの日本画家の展覧会を続けて開催することで、日本画の魅力を発信しました。横山大観展は、師友交流という着眼点が評価され、高階秀爾氏に

よる「2013年の3選」（毎日新聞2013年12月26日）に選出されました。また、観山展は当館のコレクションを核にした当館の独自性の高い展覧会となりました。

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
<p><u>展覧会</u></p> <p>●Welcome to the Jungle 熱々！東南アジアの現代美術</p> <p>【4月13日(土) - 6月16日(日)】</p> <p>シンガポール美術館と共同企画し、東南アジア8ヶ国の多様な歴史と文化、近年の社会的・政治的な問題を考察した東南アジアの作家25名の現代美術を取上げる展覧会。</p> <p>同館のコレクションを核に双方のキュレーターとの協働で構成された、国際交流、コラボレーション事業として実施。</p>	<p>□目標入場者数：20,000人</p>	<p>【未達成】16,910人</p>
<p>●プーシキン美術館展 フランス絵画300年</p> <p>【7月6日(土) - 9月16日(月・祝)】</p> <p>ロシア屈指の規模と収蔵内容を誇る、モスクワのプーシキン美術館のコレクションの中核をなす、印象派の作品を含むフランス絵画の傑作を体系的に紹介する展覧会。</p> <p>朝日新聞社との共催により、幅広い広報展開、多くの集客による地域の賑わい創出を実現。</p>	<p>□目標入場者数：230,000人</p>	<p>【達成】337,240人</p>
<p>●岡倉天心生誕150年・没後100年記念 『國華』創刊125周年記念</p>	<p>□目標入場者数：70,000人</p>	<p>【達成】91,081人</p>

<p>朝日新聞創刊 135 周年 横山大観展：よき師、よ き友—紫紅、未醒、芋錢、 溪仙</p> <p>【10月5日(土) - 11月24 日(日)】</p> <p>大正時代に焦点を当て、横 山大観が日頃親しく交わ った個性豊かな画家たち との相互関係に着目する ことにより、横山大観の、 明治時代には見られなか った新感覚溢れる作品が 生み出された背景を探る とともに、その魅力を伝え る展覧会。</p> <p>横山大観記念館の協力の 下、協同で調査研究したコ ラボレーション事業とし て実施。</p> <p>また共催者である朝日新 聞社と対等出資して十分 な予算規模を確保し、広報 効果を高め集客を実現。</p> <p>●岡倉天心生誕 150 年・没 後 100 年記念 生誕 140 年記念 下村 観山展</p> <p>【12月7日(土) - 2月 11日(火・祝)】</p> <p>本市ゆかりの日本画家・下 村観山の生誕 140 年を記念 し、調査に取り組み、代表 作を含む館の独自企画とし ての回顧展。</p> <p>「天心サミット」と連携 し、相互広報実施。</p>	<p>□目標入場者数：30,000 人</p>	<p>【達成】39,750人</p>
---	-------------------------	--------------------

イ 若手のアーティストの創作支援と発信

<p>[目指す成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アートギャラリーやグランドギャラリーを活用して、有望な若手アーティストに作品発表の機会と場を提供し、創作活動を支援します。 <p>以上を行うことで、有望な若手アーティストの創作活動を支援します。</p> <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若い作家を起用した企画を実施し、SNSなどを通して注目を集めました。当初グランドギャラリーを含む館内数か所での映像作品展示を想定していましたが、作家との協議の過程で、展示場所が来客の難しいアートギャラリー1のみになったことなどにより、入場者数が未達となりました。 ・今年度の反省を踏まえ、次年度には次のような点を改善し入場者数増を目指します。 <p>早い時期に作家を選定し、プレスリリース、ダイレクトメール、ホームページ等による効果的な広報展開を行います。アートギャラリー以外での作品展示や企画展のオープニングや記者会見の機会を活かしての告知など、より多くの方に見ていただく工夫をします。また、ダイレクトメールや報告書、ホームページを日英バイリンガルで製作し、海外への発信を強化します。</p>		
<p>[取組内容]</p> <p>●若手作家支援事業</p> <p>将来の横浜トリエンナーレの作家選定に資することを前提に、横浜トリエンナーレ組織委員会と連携し、ユニークな活動を展開しつつある有望な若手アーティストを独自の視点で選出し、アートギャラリーやグランドギャラリーでその作品を紹介</p>	<p>[達成指標]</p> <p>□目標入場者数：3,000人</p> <p>■4-5月 作家選定</p> <p>10-3月の間 展覧会開催</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【未達成】927人</p> <p>【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10/18 企画展会議で決定 ・3/8-30 開催

ウ 横浜トリエンナーレへの取組み

<p>[目指す成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当館において開催される横浜トリエンナーレ2014の基盤整備・プレ事業開催に全館体制で取組みます。 ・選定されたディレクターのもとテーマに沿って調査を継続し作家と作品選定を進めます。 ・必要に応じて記者会見を実施し、事前告知に努めます。 ・プレ企画として国際展のあり方を問うシンポジウム等を開催し、広く市民に認知されるよう取組みます。 ・国際的なネットワークを構築するため、専門家やアーティストの人的交流を促します。 <p>以上を行うことで、横浜トリエンナーレ事業を横浜美術館の発信力の柱のひとつとしていきます。</p> <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際的な発信力をもった重要な企画展として、横浜トリエンナーレ組織委員会と緊密に連携しながら全館体制で取組みました。 ・現代美術の展覧会の関連イベントを通じて横浜トリエンナーレへの市民の期待を高めるとともに、学芸員が計画的に国内外で調査しました。教育普及と広報のための特別プログラムを準備し、またオリジナルグッズの製作を進めています。

<p>・館長の逢坂恵理子は、国際展関係者を一堂に集め情報交換とネットワーク構築を目的に創設されるIBA (International Biennale Association) の準備委員会に、平成23年秋に横浜トリエンナーレの代表として日本から唯一招待され、その後討議を重ね、現在は理事として平成26年7月の正式発足に向け準備をしています。</p>		
<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●国際交流に資するシンポジウム ●現代美術と市民協働に関するワークショップ ●国内外調査・研究、ネットワーク形成 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> □1回/年 □1回/年 □調査出張 海外6回程度/国内20回程度 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】1回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6/16 ジャングル展 緊急フォーラム「シンガポール、インドネシア 00 (ゼロ) 年代のアーティストたち」(出演:ムハマッド・ユスフ, チャールズ・リム) 103人 【達成】1回/年 ・2/16 百瀬文展 プレイイベント: 観客参加型パフォーマンス「定点観測」 26人 【達成】 国内外の主要な国際展を調査し、ネットワーク形成 ・海外9回 (ヴェネチア・ビエンナーレ、シンガポール・ビエンナーレほか) ・国内15回 (あいちトリエンナーレ、瀬戸内国際芸術祭ほか)

(2) 魅力あるコレクションを形成し、活用するとともに未来に継承するための取組み

ア 魅力あるコレクションの形成、活用と未来への継承

(ア) コレクションの形成

<p>[目指す成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民に親しまれる作品、美術の新しい価値を創造する作品、横浜の美術の歴史を伝える作品の収集を提案し、横浜市民共有の財産として収蔵している優れたコレクションをさらに充実させます。 <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収集方針について専門家としての知見をもとに詳細な提案を行いました。収集方針に基づいて、収集候補作品を提案しました。 		
<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●今後の中期的な収集の方向性検討 ●3か年ごとの収集計画策定 ●横浜トリエンナーレの機会を活かした、話題性のある現代美術作品の 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■7月 中期重点方針を見直し 8月 市と協議して改訂版を策定 11月 内部検討委員会等で報告 ■7月 横浜トリエンナーレの開催年(平成26年)を念頭に入れ、収集計画案を立案 ■7月 横浜ゆかり作家 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】</p> <p>1/28 政策経営協議会で提案済。ただし、必要に応じ、市との協議に対応。</p> <p>【達成】</p> <p>1/28 政策経営協議会で提案済。ただし、必要に応じ、市との協議に対応。</p> <p>【達成】</p>

<p>収集提言</p> <p>●内部検討委員会、横浜市美術資料収集審査委員会および価額評価委員会を経た適正な収集方法</p>	<p>の収集計画を立案</p> <p>■10月 内部検討委員会 1回/年</p> <p>11月 横浜市美術資料収集審査委員会および価額評価委員会 1回/年</p>	<p>3月 案を館内決裁、市に提案済。ただし、必要に応じ、市との協議に対応。</p> <p>【達成】各1回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9/9 内部検討委員会 ・11/5 収集審査委員会および価額評価委員会
--	---	---

(イ) コレクションの継承

<p>[目指す成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・収蔵庫内の環境を整え、作品の材質に適した状況で作品を安全に保存します。 ・作品台帳および収蔵庫内の作品蔵置場所を整備し、コレクションを確実に管理します。 <p>以上を行うことで、市民の共有財産であるコレクションを適切に保管して次世代に継承します。</p> <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状の課題を市と共有し、また着実に管理した結果を目録として公開し、広く研究に貢献しました。 ・年度2回、集中的な庫内清掃を学芸員が実施し、庫内環境の保全に努めました。 		
<p>[取組内容]</p> <p>●収蔵庫の満杯状態を改善するための新蔵置方法提案</p> <p>●収蔵作品台帳をもとにした収蔵品目録の印刷物を作成</p>	<p>[達成指標]</p> <p>■8-9月 蔵置案を策定</p> <p>11月 モニタリングや内部検討委員会において提案</p> <p>■前年度の新収蔵品の目録刊行 1回/年</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】</p> <p>8/20 政策経営協議会で提案済。ただし、必要に応じ、市との協議に対応。</p> <p>【達成】1回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3/25 2012(平成24)年度収蔵品目録500部発行 <p>【追加実績】1回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12/20 2004(平成16)年度収蔵品目録500部発行

(ウ) コレクションの活用

<p>[目指す成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原則として年2～3回コレクション展を開催します。 ・来場者が作品に親しみ、鑑賞を深められるよう、展示構成やテーマ展示などを工夫します。 ・人気の高い作品を展示する一方で、様々なテーマを立てて、1万点近いコレクションのなるべく多くを展示し、特に新収蔵作品は迅速に展示公開します。 ・同時期に開催する企画展と連動したテーマ展示をし、来館者の作品理解を深める工夫をします。 ・質の高い鑑賞体験を確保できるよう、展示方法や展示室の環境整備と情報提供に工夫をします。 ・コレクションをベースにする企画展を開催するほか、コレクションによるパッケージ展を立案し、他の美術館での開催をオファーします。 <p>以上を行うことで、コレクションを市民に還元し、美術館のプロモーションに貢献します。</p> <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プーシキン美術館展と連動してコレクション展Ⅱが牽引し、目標365,000人に対し、実績は491,839人(135%)となりました。
--

- ・各期とも企画展とゆるやかな連携を持たせたテーマを設定し、展覧会全体の発信力を高めました。
- ・当館の優れた観山コレクションを核として、公立美術館としては約35年ぶりに本格的な下村観山展を開催しました。
- ・コレクションによるパッケージ展は、平成26年度秋にシンガポール美術館で当館のコレクション展が予定され、当館コレクションを国際的に発信する機会となります。

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
<p><u>展覧会</u></p> <p>●コレクション展Ⅰ 【平成25年4月13日(土) - 6月16日(日)】 特集展示：賛美小舎 上田コレクション 一括寄贈を受けた上田コレクションをまとめて初公開</p> <p>●コレクション展Ⅱ 【平成25年7月6日(土) - 9月16日(月)】 特集展示：フランスの近代絵画と版画 サカタのタネ創業100周年に連動し、坂田コレクションを紹介、大佛次郎記念館と連携した展示を実施</p> <p>●コレクション展Ⅲ 【平成25年10月5日(土) - 平成26年2月16日(火・祝)、ただし11月25日(月)-12月6日(金)は展示休業】 特集展示：明治の洋画</p>	<p>□目標入場者数：23,800人</p> <p>□目標入場者数：234,300人</p> <p>□目標入場者数：106,900人</p>	<p>【未達成】19,366人</p> <p>【達成】339,160人</p> <p>【達成】133,313人</p>
<p><u>その他</u></p> <p>●コレクションによるパッケージ展</p>	<p>■10月 企画案、国内外の提案先(候補)を策定 11月 打診開始</p>	<p>【達成】 シンガポール美術館での当館コレクション展実施(平成26年10-11月)のため、6月にシンガポールに出張し、展示環境を調査、あわせて展覧会の出品内容について協議。その後、平成26年2月に展示内容の案をシンガポール美術館に提案し協議継続中。</p>

イ モノとしての「美術情報」の収集、保管、活用

<p>[目指す成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> デジタル化の時代においてこそモノとしての「美術情報」の重要性と稀少性に着目し、専門的な見地にたって、これらを収集・整理・保管し、様々な人の要望に対応し、適切かつ丁寧に提供することで、これまで蓄積してきた図書等の美術情報を発展的に継承し、公開して市民や研究者の利用に供します。 <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> 際立った成果として、横浜トリエンナーレの過去の蔵書を、活動を終了したYOKOHAMA創造界限【ZAIM】より引取り、アーカイヴ方針を定めました。今後は引続き、収集、保管、公開し、トリエンナーレ研究に貢献します。 		
<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●企画展等事業連動した特集公開 ●横浜トリエンナーレ情報集積とアーカイヴ化 ●映像資料公開 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> □特集コーナーの設置 4回/年 ■4-5月 横浜トリエンナーレのための調査で得られた作家・作品資料を学芸グループで分類・アーカイヴ化フロー確定 7月 開始 □美術情報センターにお 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】4回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジャングル展 16冊 ・プーシキン美術館展 15冊 ・大観展 23冊 ・観山展 22冊 ・コレクション展 第1,2,3期 各18, 15, 13冊 <p>【追加実績】5回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・司書の企画した特集テーマによる資料公開 <ul style="list-style-type: none"> ・西アジア 4/1-6/16 10冊 ・日本美術院 9/29-10/4 27冊 ・国華 11/27-12/6 13冊 ・歌川広重 2/17-28 10冊 ・ケース内資料展示 <ul style="list-style-type: none"> ・工夫を凝らした美術展カタログ 4/1-3/31 8冊 <p>【追加実績】3回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民を対象とした探検ツアー（バックヤードツアー）：1/26, 2/22, 3/22 各8, 3, 6人 <p>【達成】</p> <p>5月 アーカイヴの枠組みを決定：①過去の横浜トリエンナーレ組織委員会の出版物・印刷物、②横浜トリエンナーレ組織委員会で収集した図書。②について、横浜トリエンナーレ組織委員会と調整し、受入れから公開までのフローを決定</p> <p>6-9月 ①を整備。②について、受入れ準備。ZAIMに保管されていた横浜トリエンナーレ組織委員会の蔵書1,400冊について美術図書室との重複図書を確認し、320冊の受入れ準備。</p> <p>10月 ②について、横浜トリエンナーレ組織委員会より320冊の図書を受入れ</p> <p>11-3月 受け入れた図書を検品、整理、登録し、リストを作成</p> <p>【達成】96件</p>

	るビデオ・ライブラリーの 利用：30件 <input type="checkbox"/> 映画や映像作品の公開 1 回/年	【達成】 1回/年 ・7/13, 14, 15 映像表現の最先端を紹介する酷回最大級の映像アートの祭典、イメージフォーラム・フェスティバル2013にて当館所蔵の映像資料7作品を含む計40作品を上映 各82, 80, 83人
--	--	---

ウ 美術館活動の基礎としての調査・研究

<p>[目指す成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コレクション、企画展、教育普及、マネジメントなどあらゆる美術館活動の基礎として調査・研究を位置づけ、その成果を事業に反映して美術館活動の質を向上させると同時に、紀要などにまとめて社会に還元します。 <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職位に応じて、事業および通常業務の遂行においてOJTを実施し、専門的知見とスキルの伝達および習得に取り組みました。 ・館蔵品および館の事業に関する論文・研究報告2本を含む研究紀要を発行しました。 		
<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●紀要発行、関係機関に配布 ●テーマを設定し、コレクションおよび企画展のための調査研究実施 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>研究紀要の発行(論文3本) 1回/年 <input type="checkbox"/>・コレクションおよび企画展についての研究 21項目 ・トリエンナーレに関する研究7項目 ・ミュージアム・エデュケーションについての研究22項目 ・美術情報に関わる研究1項目 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】 1回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3/25 紀要発行 500部 <p>【達成】 計画どおり各項目調査研究実施</p>

(3) 美術と市民を様々な糸口でつなぎ、美術の魅力を伝える取組み

ア 多様な市民が鑑賞、搜索を楽しむことができるプログラム

(ア) 鑑賞サポート事業

<p>[目指す成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成25-27年度でコレクション展鑑賞サポートのレギュラーサービス化に着手します。 ・子どもを対象とした鑑賞プログラムの開発に学校と連携して取り組みます。 <p>以上のように鑑賞を深める機会を多くの方に提供することで、社会教育機関である美術館の重要な使命を、そして、幅広い世代の、様々な立場の、様々な属性を持つ人々に美術の価値を還元するという公立美術館の使命を果たします。</p> <p>[成果についての振り返り]</p>
--

<p>・コレクション展を楽しむための様々なトークやワークショップの機会を設けました。特に、障がい者に向けた鑑賞サポートは、コレクション展各期の鑑賞会など他館に先駆けた活動を含んでおり、今後も機会をとらえ継続していきます。</p> <p>・創造支援活動の実績を積んでいる子どものアトリエと教育プロジェクトチームが協働し、学校と連携した鑑賞プログラムを実施しました。</p>		
<p>[取組内容]</p> <p><u>鑑賞サポート事業</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ●コレクションを活用した鑑賞サポート ●ギャラリートーク <ul style="list-style-type: none"> ●ギャラリートーク ●手話通訳付きギャラリートーク <ul style="list-style-type: none"> ※再掲：5-(3)-イ 美術館アクセス・鑑賞サポート事業 ●学芸員や収蔵作家によるレクチャー ●鑑賞ワークショップ <ul style="list-style-type: none"> ●視覚に障がいのある人とない人が共にたのしむ鑑賞会 ●造形体験の取入れ <ul style="list-style-type: none"> ※再掲：5-(3)-ア-(ウ) 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> □10回/年 □1回/年 □1回/コレクション展 □1回/コレクション展 □1講座/年 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】13回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1期 4/19, 5/3, 31, 6/7 各3, 23, 4, 18人 ・第2期 7/19, 8/2, 16, 30 各48, 28, 35, 36人 ・第3期 10/18, 11/15, 12/20, 1/31, 2/7 各23, 31, 15, 30, 35人 <p>【達成】1回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11/1 聴覚に障がいのある人とない人が共に楽しむ鑑賞会 13人 <p>【達成】1回以上/コレクション展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1期 5/18, 6/1 アーティストトーク(小野友三, 川崎麻児) 各33, 28人 ・第2期 7/29 ゲストトーク(木村希八) 45人 ・第3期 2/15 レクチャー付フィルム上映会「ヴァンギャルドシネマのタベ」15人 <p>【達成】1回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1期 5/17 8人 ・第2期 9/6 35人 ・第3期 1/17 21人 <p>【追加実績】2回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11/17 みんなで楽しむ横浜美術館コレクション83人 ・2/1 神奈川県ライトセンター利用者向け鑑賞会「横浜美術館に行ってみませんか？」15人 <p>【達成】1講座/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4/27 横浜美術館所蔵作家のレクチャーと作品鑑賞「ゴブラン織り＝大いなる自然からの創造」21人

<p>●敬老フェスタ(仮称)</p>	<p>□1回/年</p>	<p>【達成】1回/年</p> <p>シルバー・アートフェスタ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11/3 ゆったり楽しむ横浜美術館コレクション展 ツアー 7人 ・12/23 アート屋台でわいわい！日本画の技法・材料・道具を体験しよう！ 266人 <p>*65歳以上は観山展、コレクション展観覧無料</p>
<p>●鑑賞サポートシートの作成</p> <p>※再掲：5-(3)-イ</p> <p>美術館アクセス・鑑賞サポート事業</p>	<p>□5作品/年</p>	<p>【達成】7作品/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12/7-2/16 7作品9シート（一般向け5作品5シート、子ども向け4作品4シート） 22,000部 <p>【追加実績】3件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞補助ツール「触れて理解する画材」 <ul style="list-style-type: none"> ・11月 日本画材、洋画材 ・3月 下村観山「小倉山」部分模写 ・3月 触察地図「横浜美術館 手で見えるフロアマップ」 250部 ・3月 中学生のためのヨコトリ2014をもっと楽しむ！鑑賞ポケットガイド85,000部（平成26年6月横浜市立中学校147校全生徒81,512人に配布予定） <p>（以上すべて、「平成25年度文化庁地域と共働した美術館：歴史博物館創造活動支援事業」の一環として制作）</p>
<p>●企画展鑑賞サポート</p> <p>●ギャラリートーク</p>	<p>□2回/企画展</p>	<p>【達成】2回以上/企画展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジャングル展 4/26, 5/10, 24, 6/14 各15, 22, 16, 21人 ・プーシキン美術館展 8/2, 9, 30 各90, 80, 80人 ・大観展 10/25, 11/8 各40, 40人 ・観山展 12/20, 1/31 各50, 100人
<p>●講演会等</p>	<p>□平均2回/企画展</p>	<p>【達成】平均2回/企画展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジャングル展 <ul style="list-style-type: none"> ・4/14, 5/11 上映&トーク(出演：カイルディン・ホリ, 宮津大輔) 各50, 52人 ・6/16 緊急フォーラム「シンガポール、インドネシア 00(ゼロ)年代のアーティストたち」(出演：ムハマッド・ユスフ, チャールズ・リム) 103人*再掲：横浜トリエンナーレ* ・プーシキン美術館展 7/20, 8/3(講師：池田理代子, 鹿島茂) 各171, 181人 ・大観展 10/5, 19(講師：横山隆, 山口晃) 各105, 131

<p>●鑑賞ワークショップ</p> <p>●鑑賞ワークショップ</p> <p>プ</p>	<p>□1回/企画展</p>	<p>人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観山展 1/11(講師：木下長宏) 210人 <p>【追加実績】1回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3/21 上映会+ポストトーク(出演：倉石信乃) 70人《若手作家支援展関連イベント》 <p>【達成】1回以上/企画展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジャングル展 5/5,6 およこで楽しむジャングル展! 12,16人 ・プーシキン美術館展 9/6 鑑賞ワークショップ「くらべて楽しむプーシキン美術館展!」17人 ・大観展 10/27 創作& 鑑賞ワークショップ「日本画を体感する一横山大観の世界」16人 *再掲：市民のアトリエ* ・観山展 <ul style="list-style-type: none"> ・12/15 創作& 鑑賞ワークショップ「日本画を体感する一下村観山の世界」16人*再掲：市民のアトリエ* ・1/13 わくわく㊦1日鑑賞講座「下村観山の《小倉山》をみよう」17組44人*再掲：子どものアトリエ* <p>【追加実績】2回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6/1 社団法人大学婦人協会(CWAJ)と視覚に障がいのある人との鑑賞会 54人 ・2/16 プレイイベント：参加型パフォーマンス 定点観測 26人《若手作家支援展関連イベント》*再掲：横浜トリエンナーレ*
<p>●夜の美術館でアートクルーズ</p>	<p>□2回/企画展</p>	<p>【達成】2回/企画展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジャングル展 4/27, 5/22 各30, 27人 ・プーシキン美術館展 7/17, 8/10 各29, 33人 ・大観展 10/25, 11/9 各31, 31人 ・観山展 12/18, 1/25 各22, 35人
<p>●造形体験の取入れ</p> <p>※再掲：5-(3)-ア- (ゆ)</p>	<p>□1講座/年</p>	<p>【達成】2講座/年</p> <p>10/27, 12/15 創作& 鑑賞ワークショップ「日本画を体感する一横山大観の世界」「日本画を体感する一下村観山の世界」各16, 16人《大観展・観山展関連イベント》</p>
<p>●鑑賞サポートツール</p> <p>●親子向け「鑑賞サポートシート」作</p>	<p>□1回/企画展</p>	<p>【達成】子ども向け鑑賞シート 1回/企画展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジャングル展 「ジャングル・マップ」5,000部

<p>成</p> <p>●音声ガイド作成</p> <p>子ども対象鑑賞サポート</p> <p>●個人向け鑑賞講座 ※再掲：5-(3)-ア -(イ) 個人向け 2講座</p> <p>●学校プログラムと連動 した鑑賞プログラム ※再掲：5-(3)-ア-(イ) 学校プログラム</p> <p>●夏休み子どもフェスタ</p>	<p>□2回/年</p> <p>□4講座/年</p> <p>□4校/年</p> <p>□1回/年(*H23実績:1回)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・プーシキン美術館展 「くらべて楽しむプーシキン美術館展!」 120,000部 (6/17に市内小学校345校、中学校149校に配布) ・大観展「大観の魅力を分析!」 7,000部 ・観山展「下村観山ってどんな画家?」12,500部(「平成25年度文化庁地域と共働した美術館：歴史博物館創造活動支援事業」のひとつとして制作) <p>【追加実績】おとな&子どもの鑑賞優待 4回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジャングル展 5/11-12, 18-19, 25-26 子ども85人(無料), 一般144人(一般当日料金の半額) ・プーシキン展 くらべて楽しむジュニアガイド持参により同伴の保護者2人まで当日券の100円引き:一般1,163人、大学・高校生38人、中学生1,033人 ・大観展 11/3 一般71人(小学生以下の子どもと一緒に観覧の保護者1人 当日券の200円引き) ・観山展 1/11-13 一般45人(小学生以下の子どもと一緒に観覧の保護者1人 一般当日券半額) <p>【達成】2回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プーシキン美術館展95,857台、大観展14,766台 <p>【達成】5講座/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おやこで楽しむコレクション展! 5/26, 10/13, 12/21 各3, 19, 14人 ・1/13 わくわく㊦1日鑑賞講座 下村観山の《小倉山》をみよう 17組44人 《観山展関連イベント》 ・1/12, 19, 26 わくわく日曜鑑賞講座 横浜美術館鑑賞クラブ「美術ってなんじゃもんじゃ?」9人 <p>【達成】4校/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3/3, 4, 5, 10 各104, 56, 111, 122人 <p>【達成】1回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8/6-14 1,468人(中学校の美術部を対象としたアートクラブ・ツアー 6校45人含)
--	---	--

(イ) 創造支援事業 子どものアトリエ

[目指す成果]

・子どもの内的発達を支援するとともに、美術および美術館に親しむきっかけを提供します。

- ・学校と連携し、造形、美術教育に取り組めます。

以上のように、開館当初から横浜美術館の特徴としてきた子ども向けの創造支援事業を継承することで、造形活動を通して子どもの自立を支援します。

[成果についての振り返り]

- ・26,276人の子どもたちに造形体験を通して、美術および美術館に親しむ機会を提供しました。
- ・親子で自由に造形をたのしむ親子のフリーゾーンは多くのお客様にお越しいただいておりますが、6月より定員制を導入し、子どもたちが自由に安全に造形にとりくむのに十分な環境を整備しました。

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
<p>●学校プログラム</p> <p>●造形プログラム：横浜市内の小学校、幼稚園・保育園、養護・特別支援学校・区毎の個別支援学級合同、各種学校を対象に実施</p> <p>●鑑賞プログラム：小学4,5,6年生を対象に実施</p> <p>※再掲：5-(3)-ア-ア 子ども対象鑑賞サポート</p> <p>●個人向け講座</p> <p>※再掲：5-(3)-ア-ア 子ども対象鑑賞サポート2講座</p> <p>●親子のフリーゾーン</p>	<p>□90校/年 (*H23実績：89校(1校キャンセル))</p> <p>□4校/年</p> <p>□22講座/年 (*H23実績：22講座)</p> <p>□定員の80%以上の参加者</p> <p>□36回/年</p>	<p>【達成】90校/年</p> <p>・幼稚園・保育園35園/小学校36校/特別支援・各種学校19校 6,507人</p> <p>【達成】4校/年</p> <p>・3/3, 4, 5, 10 各104, 56, 111, 122人</p> <p>【達成】22講座/年、113%</p> <p>・22講座(うち造形20講座)</p> <p>・113%(定員1,190人に対し1,349人参加(うち造形定員1,090人に対し1,278人))</p> <p>【達成】39回/年</p> <p>・39回/年 18,491人</p> <p>*6/9, 12/8, 2/9は《Heart to Art》による開催</p>

(ウ) 創造支援事業 市民のアトリエ

[目指す成果]

- ・創作体験をきっかけに美術に親しむ市民の裾野を広げるとともに、市民の創作活動を支援します。
- ・創作体験を鑑賞につなげるワークショップを行い、作品鑑賞への興味を広げます。
- ・若手アーティストを講師とするワークショップを開催し、新しい表現の魅力を市民に伝えると同時に作家支援につなげます。

以上のように、開館当初から横浜美術館の特徴としてきた一般の市民向けの創造支援事業を深化させることで、市民の創作活動を支援します。

[成果についての振り返り]

- ・5,647人の方に創作活動の楽しみを体験していただきました。
- ・「ゴブラン織り=大いなる自然からの創造」や企画展開連イベントでもあった「日本画を体感する」の講座など

<p>を通じ、展覧会に出品されている作品について、技法体験や、作家や専門家の技法解説を通して鑑賞を深めていくという、当館で実績を積んできた創作体験活動を活かした鑑賞という独自の講座に取組んでおり、今後も深化させていきます。</p>		
<p>[取組内容]</p> <p>●ワークショップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民が美術に親しむためのワークショップ ・創作体験を鑑賞につなげるワークショップ ・若手アーティストによるワークショップ <p>※再掲：5-(3)-ア-(ア) 鑑賞ワークショップ (コレクション展、企画展) 各1講座</p> <p>5-(3)-イ学校教育連携事業 2講座、環境啓発事業 1講座</p> <p>●オープンスタジオ</p>	<p>[達成指標]</p> <p>□30 講座/年 (含：若手アーティストによるワークショップ15回)</p> <p>□定員の80%以上の参加者</p> <p>□25 コース/年 (*H23 実績：20 コース)</p> <p>□定員の80%以上の参加者</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】36講座/年、81%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・36講座/年(含：若手アーティストによるワークショップ51回(版画基礎コース6回×8コース、横浜みどりアップ・ワークショップ4回)) ・81%(定員2,256人に対し1,818人参加) <p>【達成】26コース/年、114%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・26コース/年 ・114%(定員3,371人に対し3,829人参加)

(エ) 市民協働

<p>[目指す成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どものアトリエや美術情報センターでの運営ボランティアに加え、展覧会鑑賞パートナーを育成します。 ・美術館の運営や事業を市民とのフラットなコミュニケーションを通じて展開します。 ・市民の力を取り込んだ横浜美術館コレクション・フレンズは、その参加費をコレクション作品の展示・鑑賞、双方向的な交流、緊急を要する修復や備品などの購入に活用します。また、美術館協力会と連携し、双方の拡大を狙います。 <p>以上のように、美術館を市民に開き、市民が多面的に美術館とアクセスでき、新しい価値観を享受でき、愛着と誇りをもつことができる環境をつくります。</p> <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・従来開催していなかったボランティアによる個人向けの鑑賞前レクチャーに向け、市民の活力を美術館で発揮していただくため、ボランティア育成を開始し、トークを試行しました。 		
<p>[取組内容]</p> <p><u>ボランティア</u></p> <p>●子どものアトリエ親子のフリーゾーン運営ボランティア育成</p> <p>●美術情報センター運営</p>	<p>[達成指標]</p> <p>□約30人/年</p> <p>□10人/年</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】35人/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4/7-3/30 35人 <p>【達成】10人/年</p>

<p>ボランティア育成</p> <p>●鑑賞パートナー(鑑賞サポート事業を支え、様々な来館者ととも鑑賞の喜びを分かち合うボランティア)育成</p> <p><u>フラットなコミュニケーション</u></p> <p>●学芸員OB、観光業OBなどとの連携によるおもてなしの心育成</p> <p>●横浜シティガイド協会などとの連携による横浜観光促進</p> <p>●原三溪生誕150年に向けた原三溪研究会との共同研究</p> <p><u>フレンズ</u></p> <p>●平成25年度横浜美術館フレンズ募集</p>	<p>□20人/年</p> <p>■平成26年4月実施をめざしプログラムの立案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4-9月 事例調査 ・10-12月 関係者意見交換 <p>■平成26年4月実施をめざし連携プランの立案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4-9月 事例調査 ・10-12月 関係者意見交換 <p>□1回/月開催</p> <p>□参加数120口(H23実績:127口)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・8/2-3/31 7人 ・10/22, 11/2, 23 各日1人計3人(1日ボランティア) <p>【達成】26人/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4/20-3/31 26人 *1/18 バリアフリー研修の他、年間を通して研修を実施 <p>【追加実績】3人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7/20-8/14 夏休み子どもフェスタ限定鑑賞ボランティア 3人 <p>【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月 横浜シティガイド協会のボランティア育成、活動についてヒアリング調査し、今後の連携の可能性について打診 ・随時 鑑賞パートナーを育成する教育プロジェクトチームと、ボランティアの育成計画等について情報交換 <p>以上を経て、平成26年7月に、館のボランティア、横浜トリエンナーレサポーター、顧客サービス員、館職員に対し、横浜シティガイド協会と連携した、おもてなしマインド育成を目指す研修実施を決定</p> <p>【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8月 横浜シティガイド協会のツアーについて調査し、横浜トリエンナーレでの街歩きツアー実施の可能性を打診 ・8月, 1月 横浜トリエンナーレ事務局と、横浜トリエンナーレサポーターのルートガイドマップ等について情報交換 <p>以上を経て、平成26年8月開始のヨコハマトリエンナーレ2014期間中に、横浜トリエンナーレサポーターの類似事業と差別化を図ったツアーを開始予定</p> <p>【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4/20 講演会 ・5-1, 3月 研究会実施(2月は天候不順で中止) <p>【達成】146口</p>
---	--	--

<p>●平成 25 年度フレンズ会 員向けプログラムの実施</p> <p>●協力会との共同レセプションデスクの設置</p>	<p>□8 回/年</p> <p>■平成 26 年 4 月実施をめざし運用のプランニング</p> <p>・10 月 関係者意見交換</p>	<p>【達成】10回/年</p> <p>・交流会 9/7, 3/16 各61,50人</p> <p>・トーク 6/5,8 7/13,17 10/30,11/2 1/15,18 各16,10 21,21 15,15 17,12人</p> <p>【達成】</p> <p>・12/7 グランドギャラリー中央部の総合インフォメーション機能をもつ円形カウンターにおいて運用開始</p>
---	---	---

イ 地域社会や市民生活に貢献する取組み

<p>[目指す成果]</p> <p>・平成 25-27 年度には、横浜市、学校、関連機関、NPO 法人などとの連携を深めるとともに、市民との協働を充実させ、美術館におけるエデュケーション事業を地域社会や市民生活に貢献する事業に発展させていく足がかりとします。</p> <p>以上のような事業を通じて、障がい者、高齢者、外国人など様々な人々が、お互いを尊重して生き生きと暮らせる社会の形成に寄与します。</p> <p>[成果についての振り返り]</p> <p>・横浜市環境創造局と連携した横浜みどりアップ・ワークショップを実施し、アートギャラリー1での展覧会と併せアート活動を通して市民の環境への関心を広げました。</p> <p>・特別支援学校を含むさまざまな学校との創造支援活動の経験を活かし、小児病棟及び重症心身障がい児施設へのアウトリーチへ展開しました。</p>		
<p>[取組内容]</p> <p><u>美術館アクセス・鑑賞サポート事業</u></p> <p>●視覚に障がいのある人と一緒につくる収蔵品鑑賞サポートプランの作成(「平成 25 年度文化庁文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業」申請予定)</p> <p>サポートシートの作成、視覚障がい者向けの音声ガイドや、ホームページの検討等</p> <p>※再掲：5-(3)-ア-(ア) 鑑賞サポート事業</p>	<p>[達成指標]</p> <p>□1 プロジェクト/年</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】1プロジェクト/年</p> <p>・「平成25年度文化庁地域と共働した美術館・歴史博物館創造支援活動支援」に申請し6月採択、2月報告会実施</p> <p>*成果物(以下すべて再掲)</p> <p>・12/7-2/16 コレクション作品鑑賞シート10種 34,500部(一般向け5種、子ども向け4種、下村観山展1種)</p> <p>・鑑賞補助ツール「触れて理解する画材」</p> <p>・11月 日本画材、洋画材</p> <p>・3月 下村観山「小倉山」部分模写</p> <p>・3月 音声ガイド「音でめぐる横浜美術館」(平成26年4月以降Podcast、当館ホームページからダウンロード開始予定)</p> <p>・3月 触察地図「横浜美術館 手で見るフロアマップ」250部</p>

<p>●福祉関係機関、NPO法人等と連携した、コレクション鑑賞サポート事業</p> <p>●NPOとの連携による手話通訳付きギャラリートークの開催</p> <p>※再掲：5-(3)-ア-ア) 鑑賞サポート事業</p> <p>●福祉機関との連携による、鑑賞パートナー向けバリアフリー研修の実施</p>	<p>□1回/年</p> <p>□1回/年</p>	<p>・3月 中学生のためのヨコトリ2014をもっと楽しむ！鑑賞ポケットガイド85,000部（平成26年6月横浜市立中学校147校全生徒81,512人に配布予定）</p> <p>【達成】1回/年</p> <p>・11/1 聴覚に障がいのある人とない人が共に楽しむ鑑賞会（美術と手話プロジェクト - エイブル・アート・ジャパンと連携）13人</p> <p>【達成】1回/年</p> <p>・1/18 バリアフリー研修（神奈川県ライトセンター連携）14人</p>
<p><u>学校教育連携事業</u></p>		
<p>●アートティーチャーズ・デー</p> <p>●夏休み子どもフェスタにおける教師ボランティア受入</p>	<p>□1回/企画展、1回/コレクション展</p> <p>□10人/年</p>	<p>【達成】1回/企画展・コレクション展</p> <p>・5/11, 7/13, 10/12, 12/14 各19, 46, 28, 28人</p> <p>【達成】10人/年</p> <p>・7/20-8/14 10人</p>
<p>●横浜市芸術文化教育プラットフォーム受入</p>	<p>□2回/年</p>	<p>【達成】2回/年</p> <p>・12/10-11 小田中学校 140人</p> <p>・12/19-20 汐見台中学校 138人</p>
<p>●大学連携</p> <p>●横浜美術大学と連携したワークショップ</p> <p>※再掲：5-(3)-ア-ウ) ワークショップ</p>	<p>□2講座/年</p>	<p>【達成】3講座/年</p> <p>・4/27 横浜美術館所蔵作家のレクチャーと作品鑑賞「ゴブラン織り= 大いなる自然からの創造」21人</p> <p>・4/27-5/25(7回4日間) ミニタペストリーづくり「初めての足踏み織り機/floor loomでタペストリーを織りましょう」11人</p> <p>・10/6-12/1(12回8日間) 「ネオライムストーンで彫刻制作を楽しむ」11人</p>
<p>●城西国際大学と連携した展覧会ウェブ</p>	<p>□6回/年</p>	<p>【達成】6回/年</p> <p>・ジャングル展、コレクション展第1, 2, 3期, 観山展,</p>

<p>サイト構築</p> <p><u>環境啓発事業</u></p> <p>○横浜市環境創造局との連携による、横浜みどりアップ・ワークショップ開催 ※再掲：5-(3)-ア-(ウ) ワークショップ</p> <p><u>病院・福祉施設へのアウトリーチ</u></p> <p>●病院・福祉施設へのアウトリーチ</p> <p><u>企業とともに社会に貢献する事業</u></p> <p>●企業連携プログラム《Heart to Art》によるアウトリーチ</p> <p><u>美術や教育活動を支える人材育成事業</u></p> <p>●博物館実習</p> <p>●子どものアトリエインターンシップ</p> <p>●子どものアトリエ教師のためのワークショップ</p> <p>●各種研修受入れ ●大学生による職場研修</p>	<p>□1 講座/年</p> <p>□1 回/年</p> <p>□2 回/年</p> <p>□1 回/年</p> <p>□約5人/年</p> <p>□2 回/年 (*H23 実績：夏春各2日/年)</p> <p>□約15人</p>	<p>百瀬文展</p> <p>【達成】1講座/年 ・5/19, 6/16, 11/4 山田哲平 環境サウンドアート—自然の音に形を与える— 各11, 10, 9人 ・10/14 視覚に障がいのある人とない人がともに楽しむ秋の音 13人</p> <p>【追加実績】1件 ・2/1-11 山田哲平「環境サウンドアート—自然の音に形を与える—」展 692人</p> <p>【達成】1回/年 ・8/29 神奈川県立こども医療センター 41人 *《Heart to Art》による開催</p> <p>【達成】2回/年 ・5/30 和泉学園いづみ幼稚園 82人 ・2/27 白樺学園しらかば幼稚園 95人</p> <p>【追加実績】1件 ・7/23 親子でエコ教室共催（パフォーマンスショー&ポスター制作）149&58人, 122&28人 *8/22-26 横浜赤レンガ倉庫1号館にてポスター展開催</p> <p>【達成】1回/年 ・7/22-31 14校21人</p> <p>【達成】9人/年 ・6/1-3/31 9人</p> <p>【追加実績】3人 ・ジュニア・インターン5-7月, 10-12月 各2, 1人</p> <p>【達成】2回/年 ・7/27, 28, 3/22, 23 各61, 55, 57, 52人</p> <p>【達成】11人 ・7-8月 11人</p>
--	---	---

<p>●保育士、教師を対象とした研修</p>	<p>■随時</p>	<p>【達成】8件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8件 340人 ・受入団体：神奈川県教育委員会, 戸塚区図画工作研究会, 港北区幼稚園協会, 神奈川県ライトセンター未就学児クラス, 磯子区保育士会, 横浜市小学校図画工作教育研究会, 横浜市特別支援教育研究会, 公益財団法人海外日系人協会(8団体) <p>【追加実績】9件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9件 572人 ・受入団体：横浜市小学校図画工作教育研究会, 横浜市立中学校教育研究会美術科部会, 西区図画工作教育研修会, 大和市渋谷小学校鑑賞会, 横浜国立大学教育人間科学部美術科(5団体)
------------------------	------------	---

6 施設の運営についての達成状況

(1) お客様目線とおもてなしの心を持ち、様々な人に開かれた美術館運営を行うための取り組み

ア おもてなしの心の徹底とリピーターの獲得

ア) 横浜美術館におけるビジターサービスの取り組み

<p>[目指す成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お客様の高い満足度をめざし、美術館に来てよかった、また来たいと思っていただけるよう運営し、障がい者、高齢者や乳幼児をお連れのお客様、外国人など様々な来館者ニーズへ対応します。 ・平成 25 年度は研究と計画、平成 26 年度をスタッフの養成と準備、平成 27 年度をスタッフのOJT と試行の年と位置づけます。 <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エントランスにおける来館者の導線整理とサービス向上のため、グランドギャラリーの中央部に総合インフォメーション機能をもつ円形カウンターを設置し、チケットブースやチラシラックの再配置を行いました。 ・随時行っている団体向けの鑑賞前レクチャーに加え、ボランティアによる個人向けの鑑賞前レクチャーを観山展にて試行で実施し、横浜トリエンナーレに向けて本格稼働いたします。 		
<p>[取組内容]</p> <p><u>拠点確立</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ●ビジターサービスの拠点を、来館者がアクセスしやすいスペースを活用して設営（アートギャラリー2など） <p><u>おもてなし</u></p> <p><u>ホスピタリティの向上</u> (新サービス開発)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●個人の希望者に向け 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■下半期 施工 <p>□平成 26 年 4 月 サービス</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12/5 総合インフォメーション機能をもつ円形カウンター等設置 ・3/20 アートギャラリー2工事 <p>【達成】4回</p>

<p>た鑑賞前レクチャー、鑑賞後ワークショップ定期開催</p> <p>●希望に応じて団体鑑賞前レクチャー実施</p> <p><u>アメニティの向上</u></p> <p>●無料でダウンロードできる横浜美術館アプリなど鑑賞サポートツールの開発</p> <p>●駅から美術館への動線へのサイン設置、グランドギャラリーの演出、備品リニューアルによる快適な周辺環境の整備</p> <p>●横浜市の観光案内所と連携</p> <p><u>アクセシビリティの向上</u></p> <p>●条例以外の減免・無料措置などソーシャルインクルージョンへの取り組み</p> <p>●高齢者、外国人、障がいをもつ方々が利用しやすい美術館となるためのサイン計画</p>	<p>本格開始にむけて検討</p> <p>■随時</p> <p>■1例実施/年</p> <p>■6月 みなとみらい駅にサイン設置</p> <p>■グランドギャラリー演出 1回/企画展</p> <p>■10月 備品リニューアル</p> <p>■平成26年4月実施をめざしサービスの立案と運用の検討</p> <p>・4-9月 事例調査</p> <p>・10-3月 立案</p> <p>■随時</p> <p>■平成26年4月実施をめざしサインマニュアルの検討</p> <p>・4-9月 事例調査</p> <p>・10-3月 立案</p>	<p>・平成26年8月開始</p> <p>・ただし観山展にて2/8-9各日午前と午後に「展覧会・ココがみどころ」トライアル実施</p> <p>22, 10, 35, 65人《観山展関連イベント》</p> <p>【達成】26団体</p> <p>・26団体1,464人</p> <p>【達成】1例実施/年</p> <p>・3月 音声ガイド「音でめぐる横浜美術館」（「平成25年度文化庁地域と共働した美術館：歴史博物館創造活動支援事業」のひとつとして制作）</p> <p>・平成26年4月以降Podcast、当館ホームページからダウンロード開始予定</p> <p>【達成】</p> <p>・6月 設置</p> <p>・グランドギャラリー演出 1回/企画展</p> <p>ジャングル展 作品があるため演出せず</p> <p>プーシキン美術館展 ひな壇前にイス配置</p> <p>大観展 山口晃作品記念撮影コーナーパネル設置</p> <p>観山展 お花と金屏風を設置し記念撮影コーナーパネル設置</p> <p>・12/5 総合インフォメーション機能をもつ円形カウンターと同時にチラシ台設置</p> <p>【達成】</p> <p>・12月 「民間観光案内所」に登録</p> <p>【追加実績】</p> <p>・12-2月 観光コンベンションビューロー事業「秘密の思い出チケット」プラン 15組30人参加</p> <p>【達成】今後、シニア割引等の検討予定</p> <p>【達成】</p> <p>・3月 モニター調査実施(近隣の商業・文化施設、ホテル等の関係者対象) 回答9件</p> <p>・3月 問い合わせが多いトイレに関するサイン整備を優先する案をチーム内で協議・共有</p>
--	---	--

<p><u>来場者コミュニケーション</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ●PDCA サイクルによる迅速・適切なクレーム対応を行うお客様目線の運営 ●顧客サービス員、電話、ホームページなどを通じて寄せられたご意見への迅速な一次対応 ●重要なお意見について、報告書による館内共有、モニタリングによる市共有によりお客様対応改善 <p><u>休館日および開館時間</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ●集客の見込める展覧会期間中の臨時開館日設定 ●企画展の関連イベント開催などには夜間開館も実施 <p><u>レクチャーホール</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ●レクチャーホール貸出の利便性向上 ・空き状況をホームページに掲載 ・平日練習プランの運営 <p><u>チケット</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ●チケット入手容易化 ・前売券の販売 	<ul style="list-style-type: none"> ■原則、48 時間以内の一次対応 ■館内共有 随時 ■モニタリング原則 1 回/月 <p><input type="checkbox"/> 2 日/年</p> <p><input type="checkbox"/> 2 回/年</p> <p><input type="checkbox"/> 稼働率 70%</p> <p><input type="checkbox"/> 前売券販売開始 2 か月前</p>	<p>以上を経て、平成26年12月サインマニュアル作成予定</p> <p>【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原則、48時間以内の一次対応 <p>【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・館内共有 随時 ・モニタリング 原則1回/月 4/26(3月分), 6/3(4・5月分), 7/1(6月分), 10/7(7・8月分), 11/25(9・10月分), 1/24(11・12月分), 3/25(1・2月分) <p>【達成】 2日/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8/1, 15 <p>【達成】 7回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 8/2, 9, 16, 23, 30, 9/6, 13 <p>【達成】 稼働率87%</p> <p>【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ジャングル展(4/13-) 1/31前売・ペア ・ プーシキン美術館展(7/6-) 4/6早割ペア・5/7前売 ・ 大観展(10/5-) 7/1先行ペア・9/2前売 ・ 観山展(12/7-) 9/13先行ペア
---	---	---

<p>・企画展の規模に応じた 販路拡大</p>	<p><input type="checkbox"/>館外販売 1か所以上/展 覧会</p>	<p>【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジャングル展および観山展 セブンチケット ・プーシキン美術館展および大観展 セブンチケットなど6か所以上
-----------------------------	--	---

(イ) 館内サービスの充実

<p>[目指す成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展覧会や教育普及といった主要事業に加え、ミュージアムショップやカフェなどの周辺事業でも、サービスに工夫を凝らして来館することの付加価値を上げ、お客様満足度の向上とリピーター獲得を目指します。 <p>[成果についての振り返り]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ショップでは、魅力あるオリジナル商品を継続的に開発しました。今後のオリジナル商品開発の一助として酒類販売業免許を取得しました。来年度には店舗のリニューアルを行い、さらに魅力を高めるとともにサービス向上を目指します。 ・カフェについては、月1回の定例会を開催するなど常に事業と連携を図りながら魅力的な空間づくりとメニュー提供に努めました。 		
<p>[取組内容]</p> <p><u>ミュージアムショップ</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ●展覧会関連商品、当館ならではのユニークな商品提供 ●遠方のお客様を中心としたニーズに応えるためのオンラインショップ運営 ●オンラインショップ活性化のためのホームページ活用 <ul style="list-style-type: none"> ●季節に合わせた特設サイトを設置 <p><u>café 小倉山</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ●展覧会と連携した限定メニューの開発 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/>企画展特設コーナー設置 1回/企画展 <input type="checkbox"/>コレクション活用オリジナル商品開発 1回/年 <input type="checkbox"/>掲載点数 200点/年 <input type="checkbox"/>3回/年 <input type="checkbox"/>6種/年 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】 1回/企画展</p> <p>【達成】 1回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1/21 観山一筆箋2種 <p>【追加実績】 1件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3月 酒類販売業免許を取得し、当館コレクションをラベルにしたワインの販売開始 <p>【達成】 掲載点数 常時200点/年以上</p> <p>【達成】 3回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9-10月芸術の秋、12月クリスマス、2月バレンタイン <p>【達成】 14種/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジャングル展 4種 ・プーシキン美術館展 3種

<p>●カフェ機能を活用した観客誘致事業や近隣施設連携事業などを展開</p>	<p>□1回/企画展</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・大観展 1種 ・観山展 2種 ・春2種、秋2種 <p>【達成】1回/企画展</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジャングル展 グリーンカフェ ・プーシキン美術館展 公式グッズの原画展示 ・大観展 和風の休憩所 ・観山展 BONSAI Café
--	----------------	--

イ 施設の適切な維持管理

(ア) 施設の長寿命化

<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●過去改修データの洗い出しと今後の改修計画提案など長寿命化に向けた準備を横浜市とともに実施 ●お客様の安全と安心を第一に、適切かつ丁寧な保守・点検業務等、故障や破損への迅速な対応 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■不具合が発生した場合に迅速な対応、横浜市と情報共有。新たな改修はデータを整理して保存し今後の改修計画に活用。 ■不具合発生時は報告書を情報共有するとともに必要な措置を実施。経過は横浜市と共有。 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】随時実施</p> <p>【達成】随時実施</p> <p>【追加実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5/17および8/20政策経営協議会にて大規模改修案提案
--	--	--

(イ) 災害時など非常時の対応

<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●グループ長以上を中心に緊急レベルに応じた適切な指示系統と対応方法構築、バックアップ体制を含めた危機管理体制整備 ●自然災害やテロ、感染症などの発生時を想定した「横浜美術館危機管理マニュアル」を整備、共有 ●様々な災害を想定した訓練を所轄消防署と連 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■危機管理マニュアル及び緊急連絡網を作成。管理職の出勤はシフト表を作成、共有し責任体制を明確化。 ■最新の危機管理マニュアルを館内で共有 <p>□防火・防災訓練 2回/年</p>	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10・12月 危機管理マニュアルを改訂 ・4・10月 緊急連絡網作成 ・毎月 シフト表を月初作成し共有 <p>【達成】10・12月改訂のマニュアルを12/28共有</p> <p>【達成】2回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10/11, 1/27実施
--	--	---

携実施		
-----	--	--

(2) 財政基盤を強化し、効率的で持続可能な運営を実現するための取組み

ア マネジメント体制、組織形態

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
<u>責任体制の明確化</u> <ul style="list-style-type: none"> ●グループごとの業務分担表を共有 ●意思決定機関 <ul style="list-style-type: none"> ●グループ長会議定例化 ●子どものアトリエ企画運営会議開催 ●副館長の配置 	<input type="checkbox"/> 変更後2週間以内に共有 <input type="checkbox"/> 隔週 <input type="checkbox"/> 1回/年 <input type="checkbox"/> 上半期 ※市と協議の上計画変更 10月	【達成】 ・年4回適正実施 【達成】 ・隔週実施 【達成】1回/年 ・3/8に実施 【達成】 ・10月に配置
<u>効率性と総合力が発揮された事業展開のための事業部門と経営部門連携</u> <ul style="list-style-type: none"> ●横断的な情報共有のためにチームリーダー連絡会を定例化 	<input type="checkbox"/> 隔週	【達成】 ・隔週実施
<u>横浜市との政策協働や美術館の社会的役割の拡大に対応した組織</u> <ul style="list-style-type: none"> ●教育プロジェクトチーム増員 ●ビジターサービスチーム新設 	<input type="checkbox"/> 4月 ※市と協議の上計画変更 9月 <input type="checkbox"/> 4月	【達成】 ・9月に配置 【達成】 ・4月に配置

イ 専門人材育成

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
<ul style="list-style-type: none"> ●適材適所の人材配置 ●横浜トリエンナーレにむけた現代美術専門人材など専門人材育成 	<ul style="list-style-type: none"> ■人事評価制度の導入 ■横浜トリエンナーレや施設管理に対応する外部委託人材の活用 	【達成】 ・財団として、MBO導入済 【達成】 ・4月 施設管理専門職員増員

<p>●企画展事前レクチャー やホスピタリティ研修 など専門館にふさわし い人材育成</p>	<p><u>当館職員の育成</u></p> <p>■日常的なOJT</p> <p>■当財団全体の各種研修に 参加</p> <p>□企画展事前レクチャー 1 回/企画展</p> <p>□接遇研修 1回/年</p> <p>□安全・安心な施設運営維 持の訓練・研修 1回/年</p> <p><u>専門職の育成</u></p> <p>■学芸員：美術品保全、コレ クション形成、展覧会立案 実施、横浜トリエンナーレ 実施、専門分野の確立の観 点から育成</p> <p>■エデュケーター：若手職員 の発想力を重視すると共 に、それぞれの専門性を活 かし、現代作家の動向、 様々な対象者、鑑賞活動と 創作体験の関連、他施設、 他団体との連携、市民協 働、社会貢献等を常に幅広 く視野に入れ活動を展開 する柔軟なコーディネー ト力と指導力を重視し育 成</p>	<p>【達成】 日常的に実施</p> <p>【達成】 財団職員が12月末までに階層別研修（イノベ ーションクラブ）2回受講、1月に上長と成果確認実 施</p> <p>【達成】 1回/企画展 ・4/12, 7/3, 9/20, 12/4実施</p> <p>【達成】 1回/年 ・6/11, 18実施</p> <p>【達成】 1回/年 ・財団主催の2/18普通救命講習を2人受講</p> <p>【達成】</p> <p><u>学芸</u></p> <p>・日常的なOJTの実施</p> <p>・国際展への調査派遣（再掲）</p> <p>・海外5回（ヴェネチア・ビエンナーレ、シンガポ ール・ビエンナーレほか）</p> <p>・国内14回（あいちトリエンナーレ、瀬戸内国際芸 術祭ほか）</p> <p>・現代美術の作家・作品等の学芸員調査招聘</p> <p>・8月 コペンハーゲン 1人</p> <p>・10月 パリ、リヨン・ビエンナーレ 1人</p> <p>・3月 現代美術の展示・保存シンポジウムおよびワー キング・セッションへの学芸員派遣（国立国際美 術館） 1人</p> <p><u>教育普及</u></p> <p>・日常的なOJTの実施</p> <p>・国際展への調査派遣（再掲）</p> <p>1月 シンガポール・ビエンナーレ 2人</p> <p>・文部科学省日独青少年指導者セミナー「博物館にお ける青少年教育」</p> <p>9月 ドイツ 1人（11月 ドイツ視察団受入）</p>
--	--	--

<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ファンレイジングとして、当館でおこなわれる広報活動、教育プログラム、子どもの育成活動を企業と協働で実施する機会《Heart to Art》拡大 ●駐車場の各種割引サービス実施 ●財団マーケティング戦略委員会への参加 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> □目標：1社 □割引制度 3種 □2回/月 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】1社</p> <ul style="list-style-type: none"> ・横浜信用金庫 <p>【達成】3種</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駐車場利用日に館内でのお買い物合計が3,000円以上の場合最初の90分無料 ・障がい者手帳をお持ちのお客様は最初の90分無料 ・当美術館の展覧会ご観覧の為に団体バスは2時間まで無料 <p>【-】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・財団主催の当該委員会が本年度より中止
--	---	---

7 その他についての達成状況

(1) 政策協働による指定管理を推進し、横浜市の専門文化施設として最適な管理運営を実現するための取組み

ア 政策協働による指定管理

<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●政策協働実現のため、政策経営協議会参加 ●一連のプロセスの透明性を高めるため、指定管理者選定評価委員会出席 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ■政策経営協議会参加と各種意見の事業への反映 ■指定管理者選定評価委員会出席と各種意見の事業への反映 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5/17, 8/20, 11/8, 1/28実施 <p>【達成】</p> <p>外部評価委員視察</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プーシキン美術館展 9/6, 11 ・大観展 10/30, 11/3, 15 ・観山展 1/10, 19, 2/5, 7
---	---	--

イ 当財団独自の事業評価委制度の運用

<p>[取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ●当財団全体の経営を評価する団体評価 ●施設やグループごとの年度を通した施設等組織評価 ●事業ごとの個別事業評価 	<p>[達成指標]</p> <ul style="list-style-type: none"> □進捗状況報告 1回/年 ※評価は協約期間終了時に実施 □2回/年 □1回/事業 	<p>[実施内容と達成状況]</p> <p>【達成】1回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・財団にて市に第3期協約中間評価（平成24年度）のための報告済 <p>【達成】2回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・財団に上期報告、通年で報告済 <p>【達成】1回/事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各事業随時実施
--	--	--

●横浜美術館内の PDCA サイクル	□指定管理者モニタリング 1回/月	【達成】原則 1回/月 ・4/26(3月分), 6/3(4・5月分), 7/1(6月分), 10/7(7・8月分), 11/25(9・10月分), 1/24(11・12月分), 3/25(1・2月分) *再掲*
--------------------	----------------------	--

ウ 「横浜市文化施設指定管理業務評価システム」による評価

[取組内容] ●横浜市が委嘱する選定評価委員会による指定管理施設に対する外部評価の実施	[達成指標] □1回/年の評価において各評価軸項目の平均B(=目標通り達成できている)以上	[実施内容と達成状況] 【-】第二期指定管理期間初年度のため評価なし
--	--	---------------------------------------

エ 年報の発行

[取組内容] ●長期的な振返りの基礎と事業活動の対外的な説明のための年報発行	[達成指標] □平成25年度年報の翌年度上半期中の発行を目指し準備実施 ・12月 記載内容の精査 ・3月 デザインの確定	[実施内容と達成状況] 【達成】平成26年6月発行見込み
---	---	---------------------------------

8 収支決算額について

収支決算書

(単位:円)

項目	予算額	決算額	差額	備考
収入				
指定管理料収入	700,000,000	700,000,000	0	
利用料金収入	71,596,000	94,753,595	23,157,595	展覧会入館者増に伴うコレクション展収入増
事業収入	265,064,000	374,136,550	109,072,550	企画展入館者増に伴う収入増
助成金等	13,020,000	14,144,526	1,124,526	
その他収入	91,417,000	90,524,034	△892,966	
合計	1,141,097,000	1,273,558,705	132,461,705	

支出				
人件費	354,194,000	322,232,128	△31,961,872	退職給付手当見直し、人事異動による減
事務費	44,006,000	51,313,741	7,307,741	WindowsXP サポート終了に伴うパソコン更新、展覧会収入増に伴う消費税負担額増
負担金	815,000	647,000	△168,000	
管理費	238,500,000	236,821,943	△1,678,057	
事業費	422,169,000	523,388,075	101,219,075	企画展入場者増に伴う共催者間精算金増

その他支出	81,413,000	80,235,539	△1,177,461	
合計	1,141,097,000	1,214,638,426	73,541,426	

収支計	0	58,920,279	58,920,279	
-----	---	------------	------------	--

9 人員配置

計	47人
・館長	1人
・副館長	1人
・グループ長	3人
・担当グループ長	4人
・チームリーダー	6人
・担当リーダー	9人
・職員	23人

10 留意事項

[取組内容]	[達成指標]	[実施内容と達成状況]
<p>●保険及び損害賠償の取扱い</p> <p>●法令の遵守と個人情報保護</p> <p>●情報公開への積極的取組</p> <p>●市及び関係機関等との連絡調整</p> <p>●その他</p> <p>1) 許認可及び届出等</p> <p>2) 施設の目的外使用</p> <p>3) 人権の尊重</p> <p>4) 近隣対策</p> <p>5) 重要書類の管理</p> <p>6) 行政機関が策定する基準等の遵守</p> <p>7) 法令の制定及び改正への対応</p>	<p>■業務の基準に基づいた適正な取扱い</p> <p>□コンプライアンス窓口の設置</p> <p>□個人情報保護研修 1回/年</p> <p>□財団事務局に情報公開窓口を設置</p> <p>■横浜市や関連機関との連絡緊密化</p> <p>■法令・条例・規程等に基づいた適正な管理実施</p>	<p>【達成】</p> <p>・適正に実施</p> <p>【達成】</p> <p>・財団にて設置済</p> <p>【達成】2回/年</p> <p>・7/31・8/30、11/29・12/20 財団にて全職員向けに年2回コンプライアンス研修実施</p> <p>【達成】</p> <p>・財団にて設置済</p> <p>【達成】</p> <p>・適正に実施</p> <p>【達成】</p> <p>・適正に実施</p>

【自主事業一覧】

	開催 時期	事業名	事業内容	入場者数
1	4月 6月	Welcome to the Jungle 熱々！東南アジアの現代美術	<ul style="list-style-type: none"> ・シンガポール美術館と共同企画し、東南アジアの諸国や地域の近年の社会的・政治的な問題を主題にした東南アジアの作家の現代美術を取り上げる展覧会 ・同館のコレクションを核に双方のキュレーターとの協働で構成された、国際交流、コラボレーション事業として実施 	16,910
2	7月 9月	プーシキン美術館展 フランス絵画 300年	<ul style="list-style-type: none"> ・ロシア屈指の規模と収蔵内容を誇る、モスクワのプーシキン美術館のコレクションの中核をなす、印象派の作品を含むフランス絵画の傑作を体系的に紹介する展覧会 ・朝日新聞社との共催により、幅広い広報展開、多くの集客による地域の賑わい創出を実現 	337,240
3	10月 11月	岡倉天心生誕 150年記念、没後 100年 『國華』創刊 125周年記念 朝日新聞創刊 135周年 横山大観展 良き師、良き友 一紫紅、未醒、芋銭、溪仙	<ul style="list-style-type: none"> ・大正時代に焦点を当て、横山大観が日頃親しく交わった個性豊かな画家たちとの相互関係に着目することにより、横山大観の、明治時代には見られなかった新感覚溢れる作品が生み出された背景を探るとともに、その魅力を伝える展覧会 ・横山大観記念館の協力の下、協同で調査研究したコラボレーション事業として実施。また共催者である朝日新聞社と対等出資して十分な予算規模を確保し、広報効果を高め集客を実現。 	91,081
4	12月 2月	岡倉天心生誕 150年記念、没後 100年 生誕 140年記念、下村観山展	<ul style="list-style-type: none"> ・本市ゆかりの日本画家・下村観山の生誕 140年を記念し、調査に取り組み、代表作を含む館の独自企画としての回顧展 ・「天心サミット」と連携し、相互広報実施 	39,750
5	4月	横浜美術館コレクション展	<ul style="list-style-type: none"> ・収蔵作品を常設展示室及びその周辺を用いて展示 ・3期実施し、各期約 250 点を展示予定 ・特集展示では、一括寄贈を受けた、賛美小舎 上田コレクションの紹介、サカタのタネ創業 100 周年に連動した坂田コレクション紹介および大佛次郎記念館と連携した展示、明治の洋画展示を実施 	491,839
6	9月 3月	若手作家支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニークな活動を展開しつつある有望な若手アーティストを独自の視点で選出し、アートギャラリーやグランドギャラリーでその作品を紹介 ・将来の横浜トリエンナーレの作家選定に資することを前提に、横浜トリエンナーレ組織委員会と連携 	927

7	4月 3月	子どものアトリエ 「学校のためのプログラム」	学校教育、教師と連携したプログラム ・造形プログラム(横浜市内の小学校、幼稚園・保育園、養護・特別支援学校・区毎の個別支援学級合同、各種学校を対象に実施) ・(鑑賞プログラム(小学4,5,6年生を対象に実施))	6,507
8	4月 3月	子どものアトリエ 「個人の造形プログラム」	幼児・児童を対象にワークショップを中心とした体験型のプログラム ・造形 ・わくわく日曜造形講座 ・わくわく一日造形講座 ・夏休み造形講座 ・長期日曜造形講座 ・(鑑賞 ・わくわく日曜鑑賞講座 ・わくわく一日鑑賞講座)	1,278
9	4月 3月	子どものアトリエ 「親子のフリースペース」	粘土、えのぐ、紙工作のコーナーで子どもたちが保護者と一緒に造形に親しめるプログラム ・子育て支援の性格も併せ持つ。 ・市民ボランティア、インターンなどとの協働で運営。	18,491
10	4月 3月	子どものアトリエ 「指導者育成事業」	教師のためのプログラム(「春期講座」、「夏期講座」)	225
11	4月 3月	子どものアトリエ 「鑑賞教育事業」	・子どものアトリエ内のショーケースでの展示 ・年間2テーマ	-
12	4月 3月	市民のアトリエ 講座	・市民が美術に親しむためのワークショップ ・創作体験を鑑賞につなげるワークショップ ・若手アーティストによるワークショップ ※コレクション展鑑賞ワークショップ 造形体験の取入れ、企画展鑑賞ワークショップ 造形体験の取入れ、大学連携 横浜美術大学と連携したワークショップ、環境啓発事業 横浜みどりアップ・ワークショップ含む	1,818
13	4月 3月	市民のアトリエ オープンスタジオ	立体、平面、版画各室でアトリエ環境を考慮し、場を共有し参加者が、自主的に制作に取り組むプログラム ・指導員は適切なアドバイスを行う。	3,829

14	4月 3月	横浜美術館コレクション 鑑賞プログラムを含む普及事業	<p>コレクションの鑑賞を深める機会を多くの方に提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ギャラリートーク ・ギャラリートーク ・手話通訳付きギャラリートーク ・学芸員や収蔵作家によるレクチャー ・鑑賞ワークショップ ・視覚に障がいのある人とない人が共にたのしむ鑑賞会 ・（造形体験の取入れ） ・敬老フェスタ ・鑑賞サポートシートの作成 	898
15	4月 3月	横浜美術館企画展 鑑賞プログラムを含む普及事業	<p>企画展の鑑賞を深める機会を多くの方に提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ギャラリートーク ・講演会等 ・鑑賞ワークショップ ・鑑賞ワークショップ ・夜の美術館でアートクルーズ ・（造形体験の取入れ） ・鑑賞サポートツール ・親子向け「鑑賞サポートシート」作成 ・音声ガイド作成 	1,861
16	4月 3月	子ども対象鑑賞サポート	<ul style="list-style-type: none"> ・個人向け鑑賞講座（一部は子どものアトリエ「個人の鑑賞プログラム」として実施） ・学校プログラムと連動した鑑賞プログラム（子どものアトリエ「学校のためのプログラム」として実施） 	500
17	4月 3月	美術館のアクセシビリティ向上の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・（視覚に障がいのある人と一緒につくる収蔵品鑑賞サポートプランの作成（「平成25年度文化庁文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業」申請予定） ・福祉関係機関、NPO法人等と連携した、コレクション鑑賞サポート事業 ・（NPOとの連携による手話通訳付きギャラリートークの開催） ・福祉機関との連携による、鑑賞パートナー向けバリアフリー研修の実施 	14
18	8月	夏休み子どもフェスタ2013	<p>教育普及グループの他チーム、学芸グループのコレクション展チームと連携して行う、夏休み期間中の小・中学生に対する鑑賞教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校連携事業、ボランティア育成事業、及び次世代人材育成事業と連動しながら実施 	1,468

19	4月 3月	市民協働 ボランティア育成事業	<ul style="list-style-type: none"> ・子どものアトリエ親子のフリーゾーン運営ボランティア育成 ・美術情報センター運営ボランティア育成 ・鑑賞パートナー(鑑賞サポート事業を支え、様々な来館者とともに鑑賞の喜びを分かち合うボランティア)育成 	755
20	7月中旬 7月下旬	次世代人材育成事業 ② 横浜美術館塾 博物館実習	学芸員資格取得を目指す学生を中心に、アートマネージメントに関心の高い市民もふくめた博物館実習	167
21	4月 3月	学校連携事業	<ul style="list-style-type: none"> ・アートティーチャーズ・デー ・夏休み子どもフェスタにおける教師ボランティア受入 ・横浜市芸術文化教育プラットフォーム受入 ・大学連携 <ul style="list-style-type: none"> ・(横浜美術大学と連携したワークショップ) ・城西国際大学と連携した展覧会ウェブサイト構築 	438
22	4月 3月	次世代人材育成事業 ① インターンシップの導入	<ul style="list-style-type: none"> ・子どものアトリエ インターンシップ ・大学生による職場研修 ・保育士、教師を対象とした研修 	1, 121
23	4月 3月	横浜美術館コレクション・フレンズ	市民の皆さんとの双方向的な交流をはかりながら、収蔵作品の保存と展示にかかる経費を支援してもらおうプログラム	238
24	4月 3月	美術作品の管理	市民の共有財産であるコレクションを適切に保管して次世代に継承 <ul style="list-style-type: none"> ・収蔵庫の満杯状態を改善するための新蔵置方法提案 ・収蔵作品台帳をもとにした収蔵品目録の印刷物を作成 	-
25	4月 3月	横浜美術館コレクション収集調査	横浜市民共有の財産として収蔵している優れたコレクションをさらに充実 <ul style="list-style-type: none"> ・現行の中期重点方針見直し ・3 か年ごとの収集計画策定 ・横浜トリエンナーレの機会を活かした、話題性のある現代美術作品の収集提言 ・内部検討委員会、横浜市美術資料収集審査委員会および価額評価委員会を経た適正な収集方法 	-
26	4月 3月	美術情報センター	これまで蓄積してきた図書等の美術情報を発展的に継承し、公開して市民や研究者の利用に供す <ul style="list-style-type: none"> ・企画展等事業連動した特集公開 ・横浜トリエンナーレ情報集積とアーカイブ化 ・映像資料公開 	17, 129

27	4月 3月	横浜美術館の広報	媒体関係者との交流会と意見交換会	30
28	4月 3月	情報配信	ウェブサイトへのアクセスも横浜美術館へのビジターと捉え、ウェブコンテンツ、ウェブサイトでの視聴覚プログラムの配信、メルマガやオンラインショッピングなどを通じて来館を促す手法開発	-
29	4月 3月	近隣アートプログラム	「近隣から始まる来館者の拡大」を目標に、「近隣アートプログラム」を実施	722
30	4月 3月	広報ツールの開発事業	横浜美術館を国内外に広報周知するために、さまざまなアートシーンやコンベンション会場などで配布するオリジナルグッズを制作	-
31	4月 3月	賑わい創出イベント事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 展覧会の開催にあわせた、みなとみらい21 地区に貢献できるイベント開催 ・ フォト・ヨコハマ、クラシック・ヨコハマなど横浜市が推進する事業との連携 	858
32	4月 3月	ビジターサービス事業	<p>お客様の高い満足度をめざした運営、様々な来館者ニーズへ対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 拠点確立 ・ おもてなし <ul style="list-style-type: none"> ・ ホスピタリティの向上(新サービス開発) ・ アメニティの向上 ・ アクセシビリティの向上 ・ 来場者コミュニケーション 	1,596
33	4月 3月	施設利用促進事業	レクチャーホール貸出の利便性向上	14,585
34	3月	子どものアトリエ「企画運営委員会」	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校連携が子どものアトリエの活動の柱となっているため、市教育委員会、市幼稚園協会、市保育園園長会などの会長職を委員に迎え、運営についての報告と意見交換する会議 ・ 子どものアトリエの情報公開の位置づけ 	-
35	4月 3月	展覧会の企画調査	テーマを設定し、コレクションおよび企画展のための調査研究実施	-

36	4月 3月	横浜美術館研究紀要発行	紀要発行、関係機関に配布	-
37	4月 3月	コレクションによるパッケージ展	国内外の他美術館へのコレクションパッケージ展巡回を実現すべく準備	-
38	4月 3月	駐車場利用促進事業	駐車場の各種割引サービス実施	-
39	4月 3月	特別鑑賞会事業	横浜市のコンベンション誘致に協力したレセプション会場などとしての活用	440
40	4月 3月	Heart to Art	ファンレイジングとして、当館でおこなわれる広報活動、教育プログラム、子どもの育成活動を企業と協働で実施	-
41	4月 3月	企業広報誘致イベントの開催	横浜美術館の施設を、企業の広報やマーケティング活動に利用してもらい、横浜美術館の周知に役立つ事業	-
42	4月 3月	撮影／フィルム・コミッション協力	当館の特色ある概観や敷地を有効活用したフィルム・コミッションへの積極的な協力：随時	-
43	4月 3月	賑わい創出イベント事業（収益）	カフェにおいて、サービスに工夫を凝らして来館することの付加価値を上げ、お客様満足度の向上とリピーター獲得を目指す ・展覧会と連携した限定メニューの開発 ・カフェ機能を活用した観客誘致事業や近隣施設連携事業などを展開	-
44	4月 3月	ミュージアムショップの運営	ミュージアムショップにおいて、サービスに工夫を凝らして来館することの付加価値を上げ、お客様満足度の向上とリピーター獲得を目指す ・展覧会関連商品、当館ならではのユニークな商品提供 ・遠方のお客様を中心としたニーズに応えるためのオンラインショップ運営 ・オンラインショップ活性化のためのホームページ活用 ・季節に合わせた特設ウェブサイトを設置	-

45	4月 3月	駐車場の運営	当館利用者に対して普通車、バスの有料駐車場サービスを提供	-
46	4月 3月	カフェの運営	カフェサービスを提供	-
47	4月 3月	横浜トリエンナーレ プレ事業	横浜トリエンナーレ事業を横浜美術館の発信力の柱のひとつとして実施 ・国際交流に資するシンポジウム ・現代美術と市民協働に関するワークショップ ・国内外調査・研究、ネットワーク形成	129
48	4月 3月	専門館連携	子どもへの対応など、財団内専門館施設の共通課題について、横断的に実施し、特定ジャンルからパイロット的に実施するなど、総合的に寄与 ・イベント・ウィークの開催 ・「プーシキン美術館展 フランス絵画 300年」にて横浜みなとみらいホールと連携した関連事業検討 ・岡倉天心生誕150年・没後100年記念事業にて横浜能楽堂などと連携した関連事業検討	1,462
49	4月 3月	フラットなコミュニケーション	美術館の運営や事業を市民とのフラットなコミュニケーションを通じて展開 ・学芸員OB、観光業OBなどとの連携によるおもてなしの心育成 ・横浜シティガイド協会などとの連携による横浜観光促進 ・原三溪生誕150年に向けた原三溪研究会との共同研究	421
50	4月 3月	地域社会や市民生活に貢献する取組み	地域社会や市民生活に貢献する事業 ・（環境啓発事業 横浜市環境創造局との連携による、横浜みどりアップ・ワークショップ開催） ・病院・福祉施設へのアウトリーチ ・企業連携プログラム《Heart to Art》によるアウトリーチ	575